

令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

1 学校教育目標	歴史と伝統を誇る学校として、校訓「あかるく、さとく、たくましく」を旨とし、「知・徳・体」の調和のとれた人格の形成を図るとともに、生徒一人一人の個性的で多様な進路の実現を図る。		
2 評価する領域・分野	◇学校経営		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒対象のアンケートでは、すべての項目で満足度が70%を上回った。そのうち80%を上回ったのが35項目(38項目中)あり、高い満足度を得ている。 ・一方、保護者対象のアンケートでは、保護者への連絡文書や保護者の行事への参加についての2つの項目で満足度が70%を下回った。 		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇生徒の実態や時代の変化に即した、活力ある学校経営の推進		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・学校運営協議会を中心に、外部の有識者等の意見を積極的に取り入れ、活性化を推進する		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
① コミュニティスクールとして、地域との積極的な連携交流を図り、本校の特色を活かした「ふるさと教育」を推進します。	① 交流事業を精選し、効果的な地域社会との交流について検証する。		
② 生徒・保護者・学校関係者の意見を学校運営に活かし、常にPDCAサイクルに基づき学校改善を行います。また、積極的な広報活動を推進し、学校の教育活動を地域社会等にアピールします。	② マスコミへの積極的な情報提供やHPの充実を図る。		
③ コミュニケーション能力の向上を図る取組の一つとして「高等学校少人数コミュニケーション講座推進事業」の円滑実施に努めます。	③ 「自立活動」および「自己探求」（学校設定教科）の指導法を研究し、生徒の困り感解消につなげる。		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
①地域社会の行事等で活動報告を行い、ボランティアによる行事運営の補助を行った。	①地域の活動に積極的に参加できたか。	A (B) C D	
②マスコミへの積極的な情報提供やHPの充実、メール配信システム登録の徹底を図った。	②学校の教育活動を積極的に発信できたか。	A (B) C D	
③指導計画を修正しながら、円滑に学習内容を実施することができた。	③対象生徒に適した指導内容を実施することができたか。	(A) B C D	
11 成果・課題	○コロナ禍の状況の中いろいろな行事を中止することが多かったが、機会をとらえてボランティア活動に参加し、部活動の発表の機会を有効に活用できた。 ○自立活動は、個別に開講することとし、指導計画に修正を加えながら、受講生徒一人一人に合わせた指導ができた。 ▲本校の現状や取組状況を更に、より効果的に周知していく必要がある。		総合評価 A (B) C D
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で連携事業が難しくなっているが、機会をとらえて生徒が活動できる行事に取り組み、自己肯定感の涵養に努める。 ・積極的な広報活動を継続するとともに、地域との継続的な連携を検討する。 		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和4年2月22日

【意見・要望・評価等】
<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着と生活習慣の確立に向けた方向性は正しい。また、鹿の研究といった地域のためになる活動は評価したい。 ・常に生徒を大切に、丁寧に指導していることに心から敬意を表するとともに感謝する。 ・ボランティア活動について、部活動を有効に活用できたことは、生徒の成長と自信につながっている。連携事業のLINEスタンププロジェクトでは、デザインがかわいいこともありスタンプを活用している。 ・ふるさと教育の新規事業が興味深い。在学中に垂井・関ヶ原について学ぶことはとても意味のあることである。様々な活動を基盤に主体的な姿が見られることを期待する。

I 自己評価

2 評価する領域・分野	◇学習指導	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどの項目の満足度が80%以上である。 ・すべての項目で昨年度よりも不満足度が下がっている。 ・「本校の先生は、授業や家庭学習への指導・支援等を通して一人一人の能力に応じた指導を行っている。」の生徒からの満足度が昨年度に比べ11ポイント上がり、授業への取組の評価を得ている。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇基礎基本の定着とICTの効率的な取り入れ方～生徒の学力向上を目指した授業実践方法の研究～	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・学校活性化プログラムによる授業研究	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> ①基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るため義務教育段階までの「学び直し」を実施する。 ②様々なICT機器の使い方を学び、授業で活用できるようにする。 ③加点方式を導入するなど、適切な評価の工夫に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学習において、生徒一人一人のつまづきを把握し、学習意欲を喚起させ、考査の平均点の向上を実現する。 ②ICT機器を使うこと自体が目的になってしまわないように、授業のねらい等を明確化し、ルールを徹底させるなどして効果的にICTを活用する。また、年間3回の公開授業期間を実施し、教員相互の意見交換を行い、授業改善の一助とする。 ③評価の可視化の工夫、加点評価等を実施する。 	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ①新入生の最初の課題考査に基礎学力診断テストを実施して、生徒の基礎学力を外部指標で明確にして授業に活かした。また1年時の最初の2か月間を国数英の3教科で学び直しに取り組みせ、基礎学力の充実を図った。 ②他教科の教員で4つの班を編成し、各班で前後期に1人ずつ研究授業を実施して授業研究を行った。また、学期ごとに授業公開旬間を設け、教員相互の意見交換を行い授業改善の一助とした。 ③・毎時間のノート点検やプリント学習、提出課題などにおいて、生徒の取組みの評価を生徒が確認できるようにするとともに、それに応じて加点して、授業へ取り組む意欲の喚起に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学習実態を把握し、生徒の指導に活用できたか。 ②授業評価の結果を授業改善に活かすことができたか。 ③教員が授業研究に取り組み、可視化した評価をしたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ① (A) B C D ② A (B) C D ③ (A) B C D
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○年2回実施の基礎学力テストから、生徒の学力推移を把握することができた。 ○類型別による履修登録を指導することで生徒の進路希望と履修科目の整合を図ってきたが、安易な選択に偏らないことや後期の履修変更を視野に入れた柔軟性のある履修登録の支援を工夫したい。 ▲今年度も、タブレットを利用したオンライン授業や通常の授業において学習支援ソフトを利用した。今後も多くの取り組みや研修を行い、生徒が主体的に活動できる授業展開の研究を進めたい。 	
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領の観点別学習状況評価を行う上での学校全体としての組織的かつ計画的な取組を行う。 ・効果的なICT活用実践と、生徒の主体的な授業参加の工夫における授業方法の研究や授業実践に取り組んでいく。 ・安易な遅刻や欠席を減らす改善策や生徒の意識改革に向けた取組を他分掌と連携して行う。 	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和4年2月22日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・このような評価を継続し、積み上げ歩み続ける底力を感じる。先生方が一丸となって、生徒一人一人に寄り添い、学習、進路、生徒指導されていることが良く伝わった。 ・学習指導において、生徒からの満足度が昨年度比+11ポイントの結果は先生方の一人一人の能力に応じた指導の結果が如実に表れていると思う。先生方の努力に敬意を表するとともに一層の指導をお願いしたい。 ・学習指導をはじめ進路指導・生徒指導において生徒の満足度が上がっていることから、学校・生徒・家庭の連携がうまく図られていることが分かる。生徒の主体的な活動が満足度に繋がっている。
--

I 自己評価

2 評価する領域・分野	◇進路指導	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> 適した進路情報提供による生徒の可能性の伸長や、希望に応じた進路指導について90%以上の生徒が肯定的である。 保護者の進路情報の提供についての満足度は80%超と高い。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇社会的・職業的自立に向けて、必要な基礎的能力の育成と、進路目標の実現に向けた支援に努める。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・教務、生徒支援部、進路支援部、各学年主任を中心に、外部リソースとの連携も図りながら、具体的な取組の企画、立案、検証を行う。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> ①総合的な探究の時間（不破スピリットタイム＝F S T）を柱としたキャリア教育を推進し、学習意欲の喚起や将来の職業選択に向けた心構えの育成に努める。 ②企業見学、ハローワーク面談を実施し、就職希望者への積極的な支援に努める。 ③希望者の適性に合った進学への支援に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ①F S Tプログラムの充実、インターンシップの推進、外部リソースとの連携。 ②キャリアプランナーの活用、ハローワークとの連携、面接・履歴書・小論文指導、就職試験対策を通して内定率 100%を目指したがわずかに及ばなかった。 ③個人懇談の充実、個別の学習支援、内定及び合格後の支援。 	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ①F S Tは年間計画に基づき、可能な限り組織的・系統的に実施した。夏季休業中の応募前職場見学も定着した。 ②キャリアプランナーを中心とした企業訪問等を通して長年の信頼関係を構築してきた。S P I 2対策、岐阜協立大学と連携した面接指導等を実施した。2/4 現在の内定率 94% 次年度以降を意識して地元企業見学を企画したが中止せざるを得なかった。 ③オープンキャンパス（Web含）への積極的な参加や進路ガイダンスをより一層充実させた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①職員の共通理解のもと、生徒のキャリア意識の向上を図ることができたか。 ②有効な支援策を実施し、内定率の向上を図ることができたか。 ③生徒や保護者の考えを把握して、個々の適性に合った進学先の斡旋及び進学実績の向上を図ることができたか。 	<p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p>
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○外部リソースと連携した多様な進路行事の実施、進路実現に向けた取組等を行い、一定の成果を上げることができた。 ○きめ細かい指導をしたが、第一次就職試験の内定率は83%であった。その後粘り強く取り組んだ結果、就職希望者内定率が96%まで向上した。 ▲懇談や進路ガイダンスの実施により希望の進学先に合格できたが、それが個々の学習によるものでは必ずしもなく、また進学後の学習を充実させるための基礎学力が備わっているかについては一抹の不安がある。 	
12 来年度に向けての改善方策案		
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ等不確定要素は多々あるが、地域との連携をより密にするようF S Tの見直しを行う。 ・企業との信頼関係構築に向け、現状確認・求人開拓のための企業訪問を引き続き積極的に行う。 ・早期の個別懇談を実施して、生徒自ら考え志望校研究を充実させることで進路先とのミスマッチをなくし、離職や退学のないよう指導していく。 		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和4年2月22日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生方が一丸となって生徒一人一人に寄り添い指導されていることがよく伝わった。 ・コロナ禍で生徒の進路に影響がないようにと思わずにはいられない。先生方の苦勞がよく分かった。 ・生徒の満足度が上がっていることから、学校・生徒・家庭の連携がうまく図られていることが分かる。 ・中学校へのPR活動は大切なことである。例えば、卒業後の進路について指定校推薦という枠があることや探究学習に力を入れていることなどを示す。 ・ふるさと教育の新規事業が興味深い。地元について学ぶことはとても意味のあることである。主体的な活動の姿が見られることを期待する。 ・高大連携事業では自分たちで考えていくことを中心に進めていけないか。そこに大学生がメンターとして意見・助言をするなど活用してもらいたい。 ・企業見学会が中止になったが、生徒の将来を決める糧となるので、実施してもらいたい。

I 自己評価

2 評価する領域・分野	◇「生徒指導（教育相談）」		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<p><本校外部評価票の集計・分析結果（生徒・保護者）より></p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的なモラルやマナーの指導に関しては、生徒の満足度は92%に達し、保護者の満足度も89%に達して、理解をいただいている。 ・いじめや差別の防止指導に関しては、生徒の満足度が87%とやや上昇したが、保護者の満足度はやや減少し81%となった。 		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ◇学級担任・学年会・分掌との連携を密にした生徒指導を行う。 ◇地域社会の一員としての自覚を深め、主体的に判断し自らの行動に責任を持つとともに、自己指導能力を高める態度を育成する。 ◇自他の生命と人格を尊重し、道徳的実践力を育成する。 ◇積極的に共感的な生徒理解に努め、予防的・開発的教育相談を推進する。 		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・生徒指導委員会(いじめ防止対策委員会)・生徒支援部会・各学年会・人権教育推進委員会・特別支援推進委員会・いじめ防止等対策検討会議		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
①家庭との連携を密にして、全職員の共通理解・行動連携のもと、自己指導能力の育成に努める。	①身だしなみ/遅刻者・欠席者数の比較/授業規律とユニバーサルデザイン/登下校指導によるマナー向上/情報モラルの向上		
②共感的な生徒理解に努め、いじめ、不登校、問題行動等の未然防止・早期発見・迅速な対応に努める。	②迷惑調査の結果と対応/相談室・保健室利用状況/全校一斉人権啓発行動の取組状況		
③自己肯定感を高め、地域社会の一員としての自覚を深め、責任と節度ある態度の育成に努める。	③部活動の一層の活性化/MSリーダーズ活動の取組状況/ボランティア活動の取組状況		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
① 遅刻者数が、平成22年度をピークに平成30年度で減少傾向にあったが、一昨年度増加し1856人となった。昨年度はやや減少し1769人であった。今年度、生徒数の減少やコロナによる休校期間があり単純比較できないが、昨年度に対し、今年度は12月末段階で1229であり、減少傾向である。ただ3年生の遅刻数は昨年度比較で増加している。交通事故発生件数は、昨年度は7件で今年度は5件である。	①遅刻者数・交通事故件数は減少したか。	A ② B C D	
②「不破高の生徒指導」と「学校いじめ防止基本方針」を改訂し職員間の共通理解と行動連携を図った。迷惑調査の結果を受けて、全体指導と個別指導の両面で、迅速に対応した。少人数コミュニケーション講座の開設に伴い、要特別支援生徒に対し柔軟に対応した。	②生徒の把握に努めるとともに、多様な生徒に対応したか。人権意識を高められたか。	A ③ B C D	
③平成29年度より携帯電話・スマホ新使用ルールを運用し、情報モラル教育の推進を図った。MSリーダーズが交通安全運動への協力を行った。生徒会を中心に生徒とともに制服の運用の見直しを行った。	③生徒が主体的に活動したか。	A ④ B C D	
11 成果・課題	総合評価		
○大部分の生徒が携帯電話・スマホの新ルールを遵守した ○少人数コミュニケーション講座の開設に伴い、要特別支援生徒に対応する中で様々な課題に柔軟に対応できた。 ▲遅刻者数が生徒数の減少があるのに、昨年度比較でやや減となる予想である。1年生では横ばいで、2年生は減少したが3年生では増加の予想である。また、30日以上長欠者がここ数年20名程度であったが、今年度は1月末で15名となっている。	A ⑤ B C D		
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒心得（校則）の見直しを生徒・保護者・教員の三者で行い、生徒の主体性を育む。 ・中間層の生徒の規範意識、人権意識をさらに高め、「いじめ」が起きにくい環境を作る。 ・遅刻防止の回数指導の方法の改善とともに全校生徒の意識向上のための方策を図る。 ・特別支援教育（個別の教育支援計画、ユニバーサルデザイン）および少人数コミュニケーション講座についてさらなる整備と体制の充実を図る。 		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和4年2月22日

【意見・要望・評価等】
<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートでの基本的なモラルやマナー、いじめや差別の防止指導に関して、生徒および保護者ともに満足度が80%以上を示し昨年度より満足度が上がっている。 ・主体的に判断し行動に責任を持てるよう共感的な生徒理解に努めている。自己指導能力の育成や自己肯定感を高めるよう指導が積み上げられている。 ・生徒の様々な困り感に丁寧に向き合い、個に応じたきめ細やかな教育活動が展開されている。